

第13章 高齢者夫婦のみの世帯の生活実態

本章では、高齢者本人および配偶者とも、65歳以上の夫婦のみによって構成されている「高齢者夫婦のみの世帯」（1,451名）の生活実態を、1 世帯の概況、2 家族の状況、3 健康・世話の状況、4 介護予防健診、介護予防サービス、5 住宅、6 就業・経済、7 社会参加と意識、8 高齢者に対する必要な施策と支援の8つの側面からみていく。

1 高齢者夫婦のみの世帯の概況

(1) 高齢者夫婦のみ世帯の推移

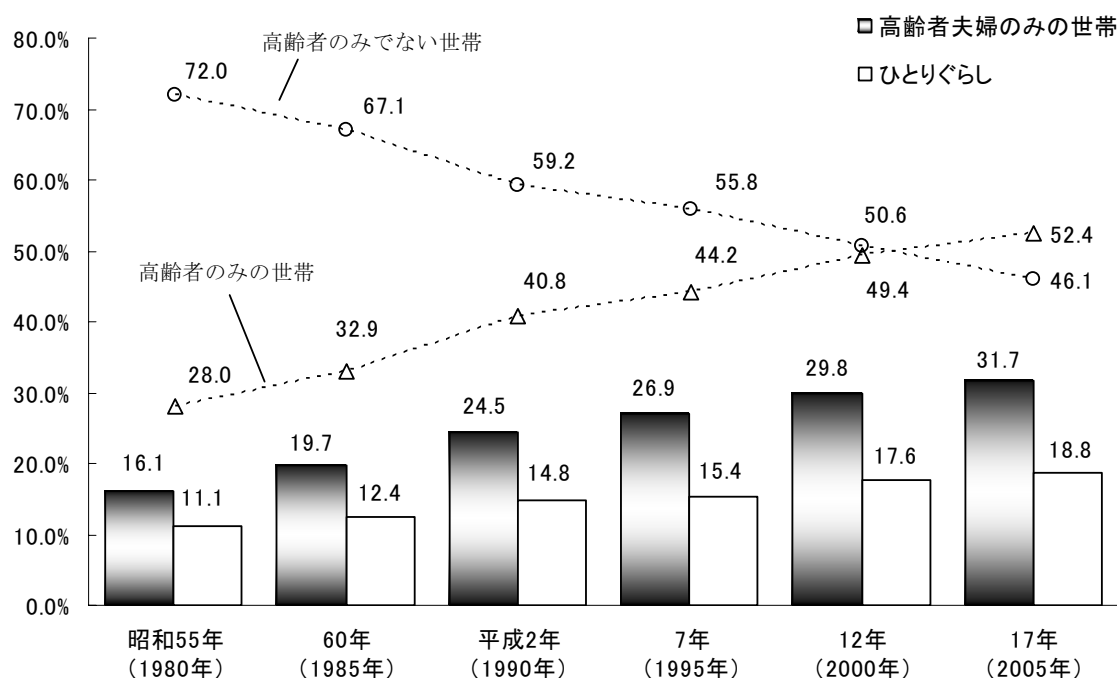
「高齢者夫婦のみ世帯」は、昭和55年（1980年）調査時よりもほぼ倍増し、全体の3割となった。

「高齢者夫婦のみの世帯」の割合は、調査を開始した昭和55年から一貫して増加し続け、今回調査において31.7%となり、昭和55年の16.1%と比較すると2倍近くに増えている。

（図13-1）

また、ひとり暮らし高齢者も増加しており、「高齢者夫婦のみの世帯」と「ひとり暮らし高齢者」を合計した「高齢者のみの世帯」の割合は「高齢者のみでない世帯（二世帯世帯、三世帯世帯など）」の割合を逆転し、52.4%となった。

図13-1 「高齢者夫婦のみ世帯」及び「ひとり暮らし高齢者」の推移



東京都福祉保健局「社会福祉基礎調査」

(2) 年齢階級

高齢者夫婦のみ世帯の年齢階級は後期高齢者の割合が男性 5 割、女性は 3 割強。

「高齢者夫婦のみ世帯」の年齢階級は、前期高齢者が 57.7%、後期高齢者が 42.3%で、『全数』（注 1）と比較すると後期高齢者が 0.7 ポイント低い程度であり差はない。しかし、性別でみると、後期高齢者の割合は男性が 50.1%、女性は 33.4%で、『全数』と比較すると、男性は 11.3 ポイント高く、女性は 12.9 ポイント低くなっており、男性の後期高齢者の割合が 5 割と高いのが目立つ。（表 13-1）

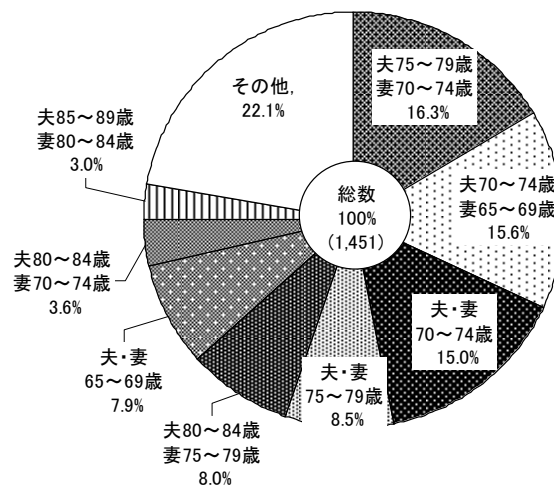
また、年齢階級を夫婦の組み合わせ（注 2）の割合でみると「夫 75～79 歳・妻 70～74 歳」の 16.3%が最も高く、次いで「夫 70～74 歳・妻 65～74 歳」の 15.6%、「夫・妻 70～74 歳」の 15.0%と続いている。（図 13-2）

表 13-1 年齢階級－性別、全数との比較

		総 数	6 5 ～ 6 9 歳	7 0 ～ 7 4 歳	7 5 ～ 7 9 歳	8 0 ～ 8 4 歳	8 5 歳 以上	7 5 歳 以上 (再 掲)	平 均
高齢者夫婦のみ	総数	100.0 (1,451)	22.3	35.4	25.0	12.2	5.0	42.3	74.1
	男	100.0 (771)	17.5	32.4	28.0	14.9	7.1	50.1	75.2
	女	100.0 (680)	27.8	38.8	21.6	9.1	2.6	33.4	73.0
全数	総数	100.0 (4,583)	27.9	29.1	20.8	13.5	8.7	43.0	74.4
	男	100.0 (2,052)	31.4	29.7	20.4	11.5	6.9	38.8	73.7
	女	100.0 (2,531)	25.0	28.6	21.2	15.0	10.1	46.3	74.9

（注 1）全数とは今回調査における高齢者全体のことをいう。（高齢者夫婦のみ世帯も含む）

図 13-2 年齢階級
（夫婦の組み合わせ）



（注 2）夫婦の組み合わせとは、例えば、75～79 歳の男性が妻の年齢を 70～74 歳と回答した数と 70～74 歳の女性が夫の年齢を 75～79 歳と回答した数の合計を総数で割った割合である。

2 家族の状況

(1) 子どもとの距離

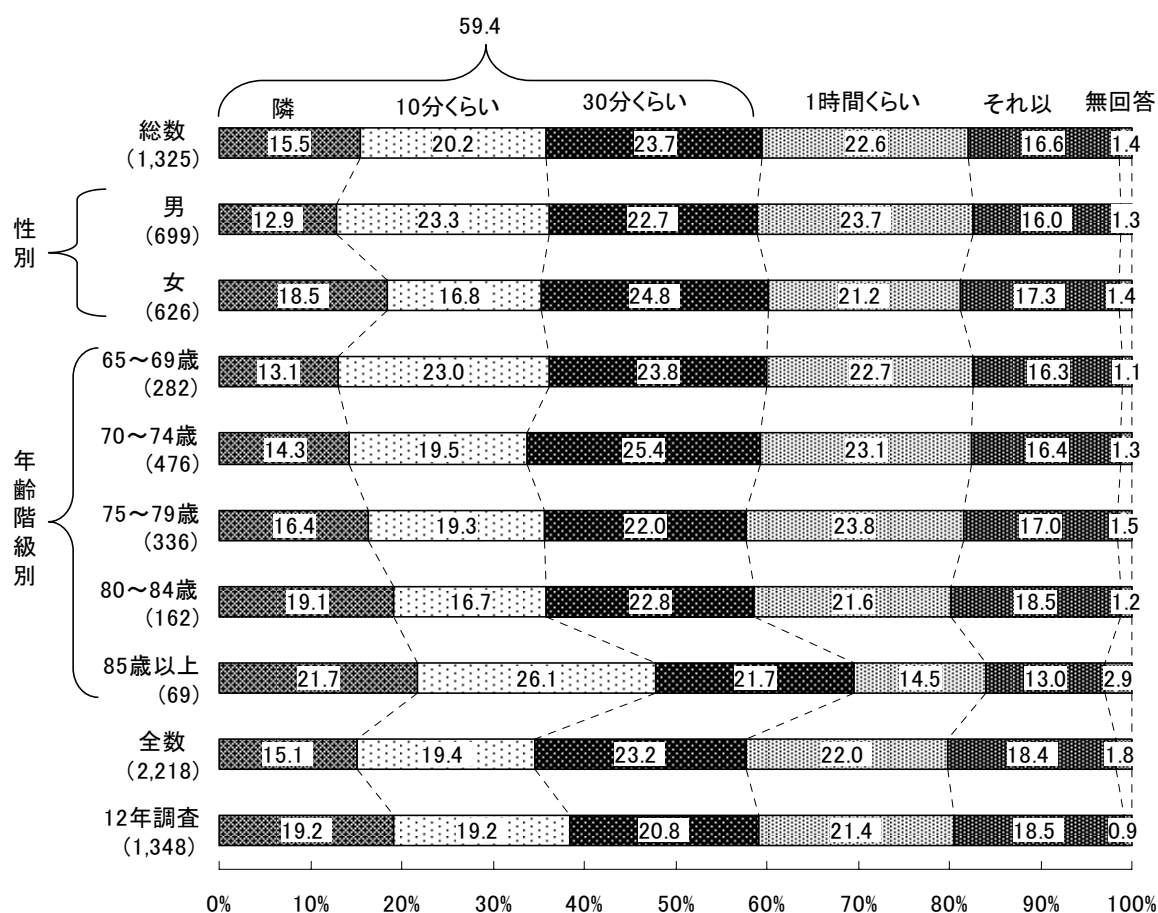
高齢者夫婦のみ世帯で子どもが「隣」に住む割合は、年齢階級が上がるにつれて上昇。

「高齢者夫婦のみ世帯」の子どもがいる高齢者 1,325 人に、一番近くに住んでいる子どもとの距離を尋ねたところ「隣」「10 分くらい」「30 分くらい」を合計した割合は 59.4%で、6 割近くの子どもの 30 分くらいまでの距離に住んでいる。(図 13-3)

年齢階級別でみると、年齢階級が上がるごとに「隣」の割合が増加している。

前回調査 (12 年) をみると、「隣」「10 分くらい」「30 分くらい」を合計した割合は 59.2%で、今回調査の 59.4%とほとんど変わらないが、「隣」の割合は減少し、「30 分くらい」の割合は増加している。

図 13-3 子どもとの距離—性、年齢階級別、全数、12 年調査との比較



(注) 一番近くに住んでいる子との距離を尋ねており、時間は通常行き来する方法による。

(2) 子どもとの同居意向

高齢者夫婦のみ世帯では、女性は男性よりも子どもとは同居せず「今のままで暮らしたい」意向が強いが、男性は女性よりも子どもと「同居」したい意向が強い。

「高齢者夫婦のみ世帯」の子どもがいる高齢者に対し、子どもとの同居意向を尋ねたところ「今のままで暮らしたい」が61.2%と最も多く、6割強となっている。

性・年齢階級別でみると「今のままで暮らしたい」は男性 58.8%、女性 63.9%で男性よりも女性の割合が高く、女性の後期高齢者ではその割合が 65.4%と高い。また、「同居したい」の割合は、男性 8.2%、女性 5.6%で女性よりも男性の割合が高く、男性の前期高齢者の割合が 8.8%と高くなっている。(表 13-2)

動作能力類型別でみると、「同居したい」はねたきり等の高齢者の割合が12.2%で最も高い。

前回調査（12年）と比べると、「今のままで暮らしたい」が59.0%から61.2%に2.2ポイント増加している。

表 13-2 子どもの同居意向一性・年齢階級、動作能力類型別、全数、12 年調査との比較

		総 数	同 居 し た い	居 が、 面は たい 今 のま ま で よ い 同	た ら 同 居 し た い	が、 面は 今 のま ま で よ い な っ	子 の 近 く に 住 み た い	今 の ま ま で 暮 ら し た い	そ の 他	無 回 答
総 数		100.0 (1,325)	6.9	10.0	14.0	4.4	61.2	0.3	3.2	
性・年 齢階級別	男		100.0 (699)	8.2	9.4	16.2	3.4	58.8	0.6	3.4
		65～74歳	100.0 (340)	8.8	10.9	14.4	3.5	58.5	－	2.9
		75歳以上	100.0 (359)	7.5	8.1	17.8	－	59.1	－	3.9
	女		100.0 (626)	5.6	10.5	11.7	5.4	63.9	－	2.9
		65～74歳	100.0 (418)	5.3	10.3	11.7	6.2	63.2	－	3.3
		75歳以上	100.0 (208)	6.3	11.1	11.5	3.8	65.4	－	1.9
動作能力 類型別	ねたきり等の高齢者	100.0 (82)	12.2	8.5	12.2	4.9	59.8	－	2.4	
	比較的重い障害のある 高齢者	100.0 (26)	7.7	11.5	11.5	－	65.4	－	3.8	
	軽い障害のある高齢者	100.0 (234)	7.3	9.4	14.1	3.0	60.3	1.3	4.7	
	障害のない高齢者	983 (983)	6.4	10.2	14.2	4.8	61.4	0.1	2.8	
全 数		100.0 (2,218)	7.9	12.7	10.4	3.9	61.6	0.3	3.2	
12年調査		100.0 (1,348)	6.9	11.8	15.0	4.5	59.0	1.8	1.0	

(注)「全数」は、高齢者全体のうち子どもと別居している高齢者 2,218 人。

3 健康・世話の状況

(1) 健康意識

「高齢者夫婦のみ世帯」における健康状態を「よいと思っているもの」の割合は、4割半ば。

「高齢者夫婦のみ世帯」の本人に対して健康意識を尋ねたところ「よいと思っているもの（「よい」と「まあよい」の合計）の割合は45.8%となり、『全数』と比較すると1.5ポイント高い。（図13-4）

また、夫婦の組み合わせの健康意識をみると、自分も配偶者も「よい」は65.4%である。（図13-5）

図13-4 健康意識－全数との比較

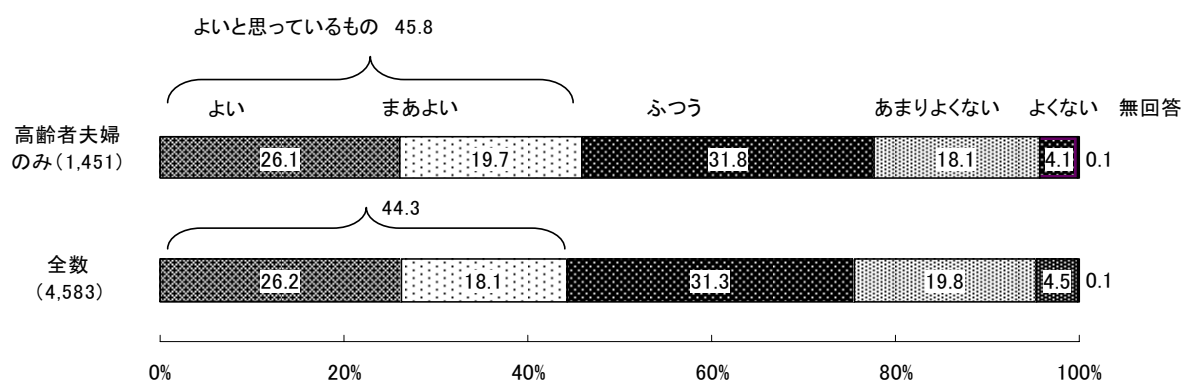
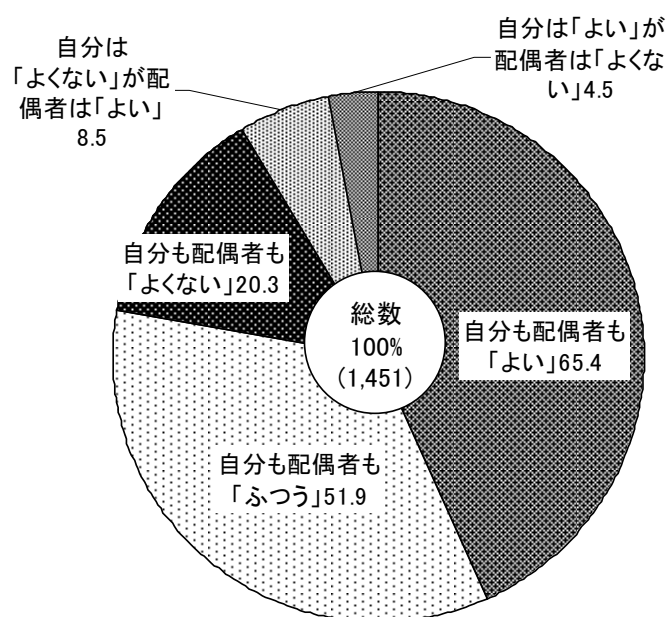


図13-5 夫婦の組み合わせ



(2) 世話を主にしている人

高齢者夫婦のみ世帯で世話を主にしている人は、ホームヘルパーが2割強、前回調査（12年）よりも16.7ポイント増加。

世話を主にしている人（128人）は「世帯員（配偶者）」が64.8%と最も高く、次いで「ホームヘルパー」の23.4%となっている。『12年調査』と比較すると、「世帯員」は18.4ポイント減少し、「ホームヘルパー」は16.7ポイント増加した。（図13-6）

図13-6 世話を主にしている人－12年調査との比較

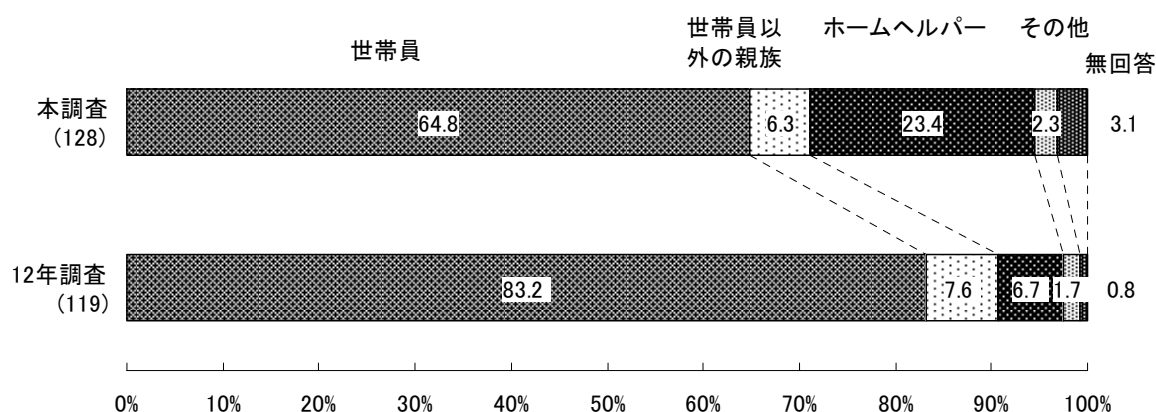


表13-3 世話を主にしている人－性・年齢階級別

		総数	世帯員	世帯員以外の親族	ホームヘルパー	その他	無回答
総数		100.0 (128)	64.8	6.3	23.4	2.3	3.1
性・年齢階級	男	100.0 (65)	78.5	6.2	10.8	1.5	3.1
	65～74歳	100.0 (18)	88.9	—	—	—	11.1
	75歳以上	100.0 (47)	74.5	8.5	14.9	2.1	—
	女	100.0 (63)	50.8	6.3	36.5	3.2	3.2
	65～74歳	100.0 (21)	61.9	—	—	33.3	9.5
	75歳以上	100.0 (42)	45.2	9.5	40.5	4.8	—

4 介護予防健診、介護予防サービス

(1) 介護予防健診の受診意向

高齢者夫婦のみ世帯において、介護予防健診の「積極的に受診したい」「あまり進まないが受診してもよい」割合は男性よりも女性の方が高い。

「高齢者夫婦のみ世帯」のうち要介護認定で要介護度 2～5 の認定を受けている者を除く 1,400 名に対し、区市町村で行われる介護予防を目的とした健康診断の受診意向を尋ねたところ、「積極的に受診したい」と「あまり進まないが受診してもよい」を合計した割合が 49.4% となり、半数近くが受診希望者となっている。(表 13-4)

受診希望者について、性別でみると「積極的に受診したい」「あまり進まないが受診してもよい」割合は男性よりも女性の方が高く、「今はまだ健康であり、受診する必要を感じない」「受診したいと思わない」の割合は女性よりも男性の方が高くなっている。

表 13-4 介護予防のための健診の受診意向－性、年齢階級別、全数との比較

		総 数	積 極 的 に 受 診 し た い	受 あ ま り し て も よ い が、 進 ま な い が、	受 診 す る ま だ 健 康 で あ り、 必 要 を 感 じ な い	受 診 し た い と 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答
総数		100.0 (1,400)	30.1	19.3	20.4	15.9	8.6	5.9
			49.4					
性別	男	100.0 (745)	26.7	17.4	22.3	18.3	9.7	5.6
	女	100.0 (655)	33.9	21.4	18.2	13.1	7.3	6.1
年齢階級別	65～69歳	100.0 (321)	31.2	15.9	27.7	11.2	6.5	7.5
	70～74歳	100.0 (506)	32.8	20.4	20.0	15.2	8.3	3.4
	75～79歳	100.0 (345)	25.5	23.2	17.7	18.0	8.1	7.5
	80～84歳	100.0 (165)	27.3	16.4	17.6	21.8	10.3	6.7
	85歳以上	100.0 (63)	34.9	14.3	7.9	17.5	19.0	6.3
全数		100.0 (4,376)	28.1	18.4	20.7	17.8	8.6	6.4
			46.5					

(注)「全数」は高齢者全体のうち、要介護認定で要介護度 2～5 の認定を受けている者を除く 4,376 人。

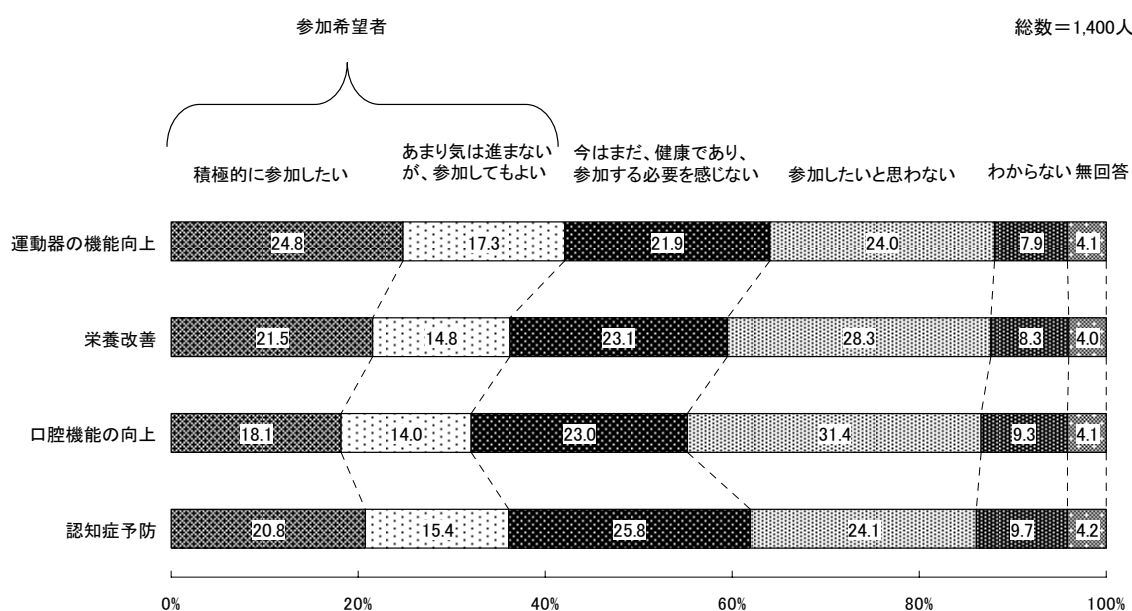
(2) 介護予防サービスの参加意向

高齢者夫婦のみ世帯の介護予防サービスへの参加希望者は3～4割。

介護予防サービス（詳細は第6章の4 介護予防サービスを参照）の参加意向を尋ねたところ、「積極的に参加したい」と「あまり気は進まないが、参加してもよい」を合計した参加希望者の割合は『全数』（詳細は第6章の4 介護予防サービスを参照）と同様に3～4割が参加希望者となった。（図13-7）

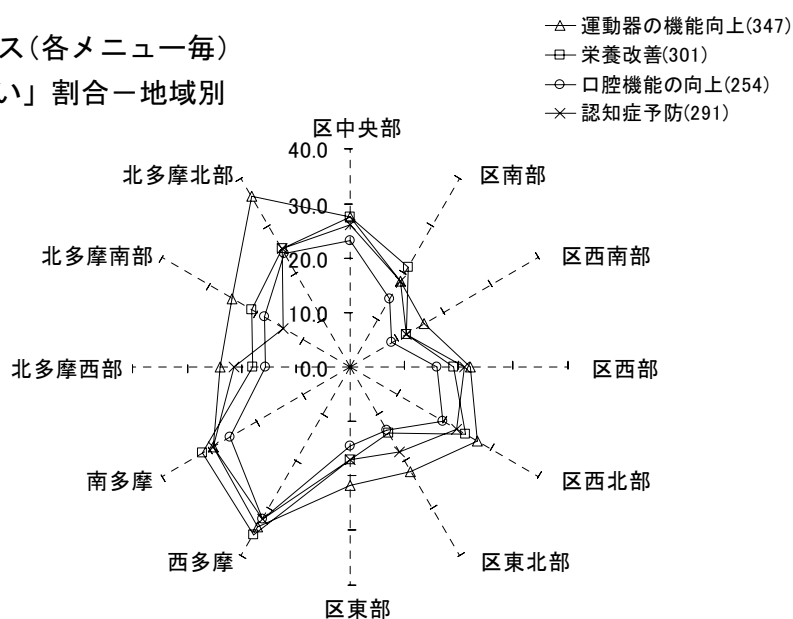
また、参考ではあるが各メニュー（運動器の機能向上、栄養改善、口腔機能の向上、認知症予防）の「積極的に参加したい」割合を地域別でみると、西多摩、南多摩地域の割合が高くなっている。（図13-8）

図13-7 介護予防サービスの参加意向



《参考》

図13-8 介護予防サービス(各メニュー毎)への「積極的に参加したい」割合—地域別



5 住 宅

(1) 住宅の種類

「高齢者夫婦のみ世帯」の持ち家（一戸建てと分譲マンション等の合計）は、8 割を超えている。

住宅の種類は、「持ち家」（一戸建てと分譲マンション等の合計）の割合が 81.3%と 8 割を超えており、『全数』よりも高く、「12 年調査」よりも増加している。（表 13-5-1）

表 13-5-1 住宅の種類一性、年齢階級、年収別、全数、12 年調査、7 年調査との比較

		総 数	持 ち 家 （ 一 戸 建 て ）	（持 ち 家 分 譲 マ ン シ ョ ン 等 ）	民 間 賃 貸 住 宅	都 ・ 区 市 町 村 の 公 営 賃 貸 住 宅	都 市 機 構 （ 旧 公 団 ） ・ 公 社 等 の 賃 貸 住 宅	借 家 （ 一 戸 建 て ）	高 齢 者 向 け 住 宅	そ の 他	無 回 答
総数		100.0 (1,451)	70.4	10.9	6.0	9.4	1.6	1.0	0.3	0.3	0.1
			81.3								
性 別	男	100.0 (771)	69.3	11.5	6.1	10.1	1.6	0.9	0.1	0.4	-
	女	100.0 (680)	71.8	10.1	5.9	8.5	1.6	1.0	0.4	0.3	0.3
年 齢 階 級 別	65～69歳	100.0 (324)	67.0	10.5	9.6	9.0	1.2	1.9	-	0.6	0.3
	70～74歳	100.0 (514)	68.7	11.9	5.8	9.9	1.9	1.0	0.2	0.6	-
	75～79歳	100.0 (363)	75.5	8.8	5.0	9.1	1.1	-	0.3	-	0.3
	80～84歳	100.0 (177)	71.8	11.3	3.4	10.7	1.1	1.1	0.6	-	-
	85歳以上	100.0 (73)	69.9	15.1	2.7	5.5	4.1	1.4	1.4	-	-
年 収 別	50万円未満	100.0 (146)	67.1	6.8	6.8	16.4	1.4	0.7	-	0.7	-
	50万円以上 100万円未満	100.0 (292)	69.5	9.9	6.8	10.6	1.4	1.4	0.3	-	-
	100万円以上 150万円未満	100.0 (136)	66.2	8.1	7.4	11.8	2.9	-	1.5	0.7	1.5
	150万円以上 200万円未満	100.0 (104)	56.7	7.7	11.5	20.2	1.0	1.9	-	1.0	-
	200万円以上 250万円未満	100.0 (136)	61.0	11.0	7.4	14.7	2.2	2.2	0.7	0.7	-
	250万円以上 300万円未満	100.0 (160)	75.0	6.9	4.4	8.8	3.8	1.3	-	-	-
	300万円以上 500万円未満	100.0 (236)	78.4	13.1	3.8	3.0	0.8	0.8	-	-	-
	500万円以上 700万円未満	100.0 (65)	76.9	16.9	3.1	3.1	-	-	-	-	-
	700万円以上 1,000万円未満	100.0 (44)	81.8	18.2	-	-	-	-	-	-	-
	1,000万円以上	100.0 (54)	72.2	20.4	5.6	-	-	-	-	1.9	-
全数		100.0 (4,583)	69.4	10.1	9.0	7.9	1.2	1.2	0.5	0.6	0.2
			79.5								
《参考》 12年		100.0 (1,514)	67.4	10.0	4.6	*	5.2	2.1	0.2	1.0	-
			77.4								
7年調査		100.0 (2,337)	67.4	7.7	5.3	*	6.5	2.0	*	1.2	0.1

(注)「12 年調査」の都・区市町村の公営賃貸住宅、「7 年調査」の都・区市町村の公営賃貸住宅および高齢者向け住宅は調査していない。

また、主な住宅の種類ごとに最も高い割合を地域別でみると、
「持ち家（一戸建て）」は区西北部 84.7%、
「持ち家（分譲マンション等）」は区中央部 28.2%、
「民間賃貸住宅」は区東部 11.7%
「都・区市町村の公営賃貸住宅」は西多摩 26.6%
「都市機構（旧公団）・公社等の賃貸住宅」は西多摩 15.6%
となっている。（表 13-5-2）

表 13-5-2 住宅の種類－地域別

	総 数	持 ち 家 （ 一 戸 建 て ）	持 ち 家 （ 分 譲 マ ン シ ョ ン 等 ）	民 間 賃 貸 住 宅	都 ・ 区 市 町 村 の 公 営 賃 貸 住 宅	都 市 機 構 （ 旧 公 団 ） ・ 公 社 等 の 賃 貸 住 宅	借 家 （ 一 戸 建 て ）	高 齢 者 向 け 住 宅	そ の 他	無 回 答
総数	100.0 (1,451)	70.4	10.9	6.0	9.4	1.6	1.0	0.3	0.3	0.1
区 部 計	100.0 (924)	73.9	10.2	6.9	6.4	0.6	1.0	0.3	0.4	0.2
区中央部	100.0 (71)	66.2	<u>28.2</u>	2.8	—	—	2.8	—	—	—
区南部	100.0 (111)	71.2	5.4	6.3	15.3	—	0.9	—	—	0.9
区西南部	100.0 (138)	76.8	10.1	4.3	5.8	2.2	—	0.7	—	—
区西部	100.0 (104)	67.3	13.5	9.6	3.8	—	1.0	1.9	1.9	1.0
区西北部	100.0 (216)	<u>84.7</u>	4.6	7.4	2.3	0.5	0.5	—	—	—
区東北部	100.0 (156)	71.8	8.3	5.1	12.8	0.6	0.6	—	0.6	—
区東部	100.0 (128)	67.2	13.3	<u>11.7</u>	3.9	0.8	2.3	—	0.8	—
市・町・村部 計	100.0 (527)	64.3	12.1	4.4	14.6	3.2	0.9	0.2	0.2	—
西多摩	100.0 (64)	50.0	4.7	3.1	<u>26.6</u>	<u>15.6</u>	—	—	—	—
南多摩	100.0 (142)	71.8	12.0	4.9	6.3	2.8	1.4	0.7	—	—
北多摩西部	100.0 (85)	60.0	17.6	4.7	15.3	1.2	1.2	—	—	—
北多摩南部	100.0 (123)	73.2	9.8	5.7	8.9	—	1.6	—	0.8	—
北多摩北部	100.0 (113)	56.6	15.0	2.7	23.9	1.8	—	—	—	—

(3) 住宅のリフォームや建て替え・住み替えの意向

高齢者夫婦のみ世帯は高齢者全体よりも、今後、住宅の「リフォームや建て替え・住み替えは行わない」割合が高く 7 割強。

今後の住宅のリフォームや建て替え・住み替えの意向については、「リフォーム・建て替え・住み替えは行わない」が 71.5%と、『全数』と比較して 5.1 ポイント高くなっている。
(図 13-9)

地域別にそれぞれの最も高い割合をみると、

「リフォーム・建て替えを行いたい」は、南多摩が 16.2%、

「住み替えを行いたい」は、区西部が 9.6%、

「リフォーム・建て替え・住み替えは行わない」は、北多摩北部が 80.5%
となっている。(表 13-6)

図 13-9 住宅のリフォームや建て替え・住み替えの意向

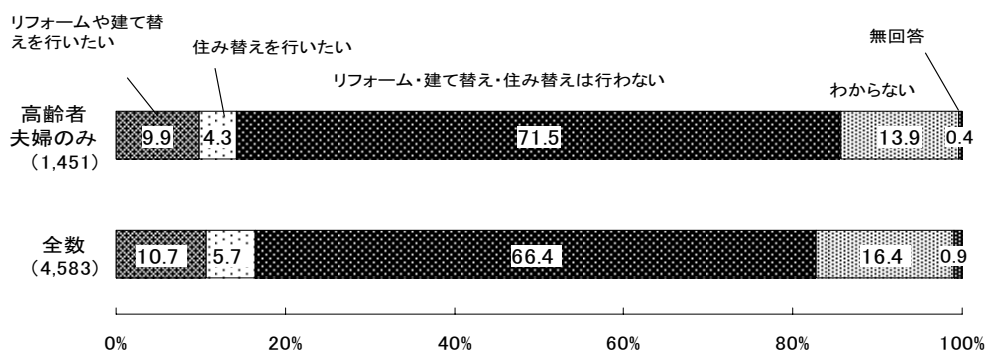


表 13-6 住宅のリフォームや建て替え・住み替えの意向－地域別

	総数	いてリフォームを行いたい	た住み替えを行いたい	えてリフォーム・住み替えを行いたい	わからない	無回答
総数	100.0 (1,451)	9.9	4.3	71.5	13.9	0.4
区部 計	100.0 (924)	9.6	5.0	70.3	14.4	0.6
区中央部	100.0 (71)	9.9	1.4	76.1	11.3	1.4
区南部	100.0 (111)	9.9	3.6	69.4	17.1	—
区西南部	100.0 (138)	9.4	4.3	71.0	15.2	—
区西部	100.0 (104)	10.6	9.6	67.3	11.5	1.0
区西北部	100.0 (216)	10.6	3.2	73.1	12.0	0.9
区東北部	100.0 (156)	7.1	6.4	72.4	13.5	0.6
区東部	100.0 (128)	10.2	6.3	62.5	20.3	0.8
市・町・村部 計	100.0 (527)	10.2	3.2	73.4	13.1	—
西多摩	100.0 (64)	1.6	3.1	56.3	39.1	—
南多摩	100.0 (142)	16.2	4.2	74.6	4.9	—
北多摩西部	100.0 (85)	8.2	3.5	69.4	18.8	—
北多摩南部	100.0 (123)	10.6	3.3	77.2	8.9	—
北多摩北部	100.0 (113)	8.8	1.8	80.5	8.8	—

6 就業・経済

(1) 就業状況

高齢者夫婦のみ世帯の仕事をしている割合は、男性の前期高齢者で 4 割（41.3%）を超えている。

高齢者夫婦のみの世帯で収入のある「仕事をしている」割合は 27.5%、「仕事をしていない」割合は 72.4%で、『全数』とほとんど変わらない。（表 13-7）

年齢階級別でみると「仕事をしている」割合は、男性の前期高齢者で 4 割（41.3%）を超えている。

表 13-7 収入のある仕事の有無一性・年齢階級別、年収別、全数、
12 年調査、7 年調査との比較

			総 数	て仕 い 事 る を し	て仕 い 事 な い し	無 回 答	
総数			100. 0 (1, 451)	27. 5	72. 4	0. 1	
性・ 年齢 階級 別	男		100. 0 (771)	33. 2	66. 8		
		65～74歳	100. 0 (385)	41. 3	58. 7	—	
		75歳以上	100. 0 (386)	25. 1	74. 9		
	女		100. 0 (680)	21. 0	78. 7	0. 3	
		65～74歳	100. 0 (453)	28. 0	71. 5	0. 4	
		75歳以上	100. 0 (227)	7. 0	93. 0		
年 収 別	50万円未満		100. 0 (146)	4. 8	94. 5	0. 7	
	50万円以上 100万円未満		100. 0 (292)	11. 6	88. 4	—	
	100万円以上 150万円未満		100. 0 (136)	20. 6	79. 4	—	
	150万円以上 200万円未満		100. 0 (104)	28. 8	71. 2	—	
	200万円以上 250万円未満		100. 0 (136)	32. 4	67. 6	—	
	250万円以上 300万円未満		100. 0 (160)	24. 4	75. 6	—	
	300万円以上 500万円未満		100. 0 (236)	30. 1	69. 9	—	
	500万円以上 700万円未満		100. 0 (65)	55. 4	44. 6	—	
	700万円以上 1, 000万円未満		100. 0 (44)	84. 1	15. 9	—	
	1, 000万円以上		100. 0 (54)	85. 2	14. 8	—	
	全 数			100. 0 (4, 583)	27. 4	72. 5	0. 1
	12年調査			100. 0 (1, 514)	27. 7	71. 9	0. 3
	7年調査			100. 0 (1, 337)	23. 9	75. 9	0. 2

(2) 就業の内容

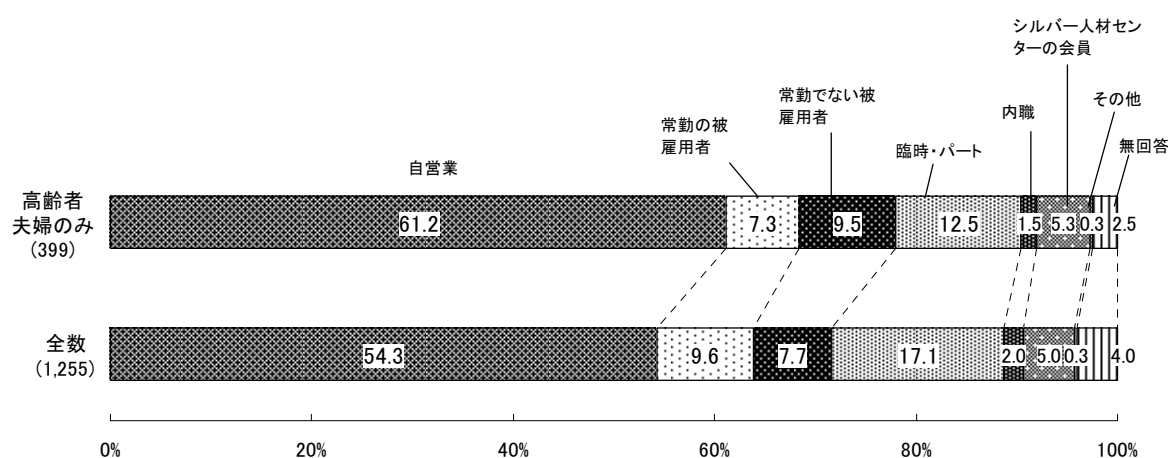
高齢者夫婦のみ世帯で収入のある仕事をしている人は自営業が6割強。

収入のある仕事の内容は「自営業」が61.2%で最も多く、次いで「臨時・パート」12.5%「常勤でない被雇用者」9.5%と続いている。(図 13-10)

『全数』と比較すると「自営業」が6.9ポイント高い。

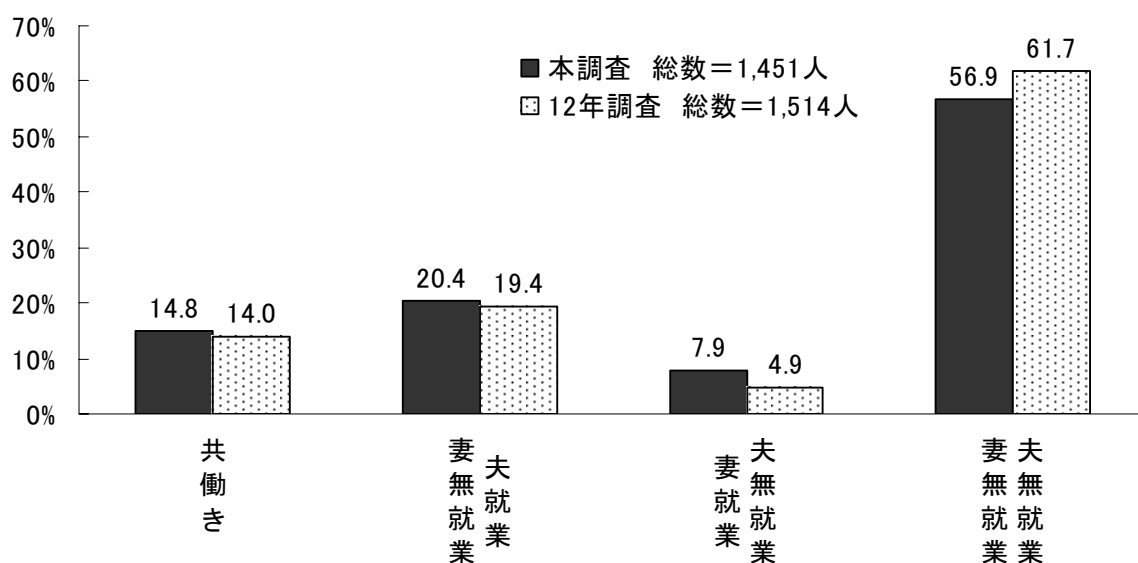
また、参考として夫婦の就業状況をみると、「夫無就業・妻無就業」の割合は前回調査(12年)よりも4.8ポイント減少している。(図 13-11)

図 13-10 収入のある仕事の内容－全数との比較



(注)「全数」は高齢者全体のうち、収入のある仕事をしている1,255人。

《参考》 図 13-11 夫婦の就業状況



(3) 就業理由

高齢者夫婦のみ世帯における収入のある仕事をしている理由は、「収入を得たいから」の割合が高齢者全体よりも低い。

収入のある仕事をしている理由をみると、「収入を得たいから」の割合が最も多く 57.4%、次いで「健康に良いから」44.6%と続いている。（表 13-8）

収入のある仕事の内容別でみると自営業（家族従事者含む）は、「収入を得たいから」が 64.3%で最も多く、次いで「健康に良いから」37.7%と続いている。また、臨時・パートは、「健康に良いから」が 68.0%で最も多く、次いで「収入を得たいから」が 48.0%となっている。『全数』と比べると「収入を得たいから」の割合が 7.3 ポイント低い。

表 13-8 収入のある仕事をしている理由（複数回答）—性・年齢階級、
収入のある仕事の内容別、全数、12 年調査との比較

		総数	収入を得たいから	健康に良いから	生かしている能力を	生きがいを得たい	社会の役に立ちたいから	社会といっしょにながって	友人がほしいから	何もしないでいると退屈する	その他	無回答	
総数		100.0 (399)	57.4	44.6	35.8	36.1	24.1	22.6	6.3	19.8	7.3	4.8	
性・年齢階級別	男		100.0 (256)	57.8	44.9	39.8	35.9	25.0	24.6	5.9	19.9	6.3	5.9
		65～74歳	100.0 (159)	64.8	48.4	38.4	37.1	23.9	25.2	5.7	21.4	5.0	3.1
		75歳以上	100.0 (97)	46.4	39.2	42.3	34.0	26.8	23.7	6.2	17.5	8.2	10.3
	女		100.0 (143)	56.6	44.1	28.7	36.4	22.4	18.9	7.0	19.6	9.1	2.8
		65～74歳	100.0 (127)	57.5	46.5	29.1	36.2	20.5	18.9	7.9	21.3	9.4	3.1
		75歳以上	100.0 (13)	61.5	30.8	30.8	46.2	46.2	21.4	—	7.1	7.1	—
収入のある仕事の内容別	自営業（家族従業者含む）	100.0 (244)	64.3	37.7	34.8	35.7	18.0	19.7	4.5	18.9	8.6	5.7	
	常勤の被雇用者	100.0 (29)	55.2	51.7	37.9	41.4	37.9	34.5	6.9	24.1	6.9	—	
	常勤でない被雇用者	100.0 (38)	44.7	42.1	55.3	26.3	39.5	28.9	5.3	13.2	10.5	—	
	臨時・パート	100.0 (50)	48.0	68.0	28.0	38.0	30.0	22.0	8.0	30.0	4.0	—	
	内職	100.0 (6)	66.7	33.3	50.0	50.0	16.7	33.3	—	33.3	—	—	
	シルバー人材センターの会員	100.0 (21)	38.1	76.2	23.8	47.6	38.1	38.1	23.8	19.0	—	—	
全数		100.0 (1,255)	64.7	46.9	34.7	38.8	22.7	23.4	8.0	23.8	5.3	4.5	
12年調査		100.0 (420)	57.4	49.3	38.1	47.4	29.3	*	8.3	20.2	8.1	—	

（注）＊は前回調査時に選択肢がなく、データが存在しないもの。

(4) 年 収

高齢者夫婦のみ世帯の年収は、男性「300 万円以上 500 万円未満」、女性「50 万円以上 100 万円未満」の割合が高い。

高齢者本人の年収（税込み）について尋ねたところ「50 万円以上 100 万円未満」が 20.1%と最も多く、次いで「300 万円以上 500 万円未満」が 16.3%、「500 万円以上」が 11.2%と続いている。（表 13-9）

性別でみると男性の年収は「300 万円以上 500 万円未満」が 25.9%、女性は「50 万円以上 100 万円未満」の割合が 38.4%でそれぞれ最も高い。

『全数』と比較すると「50 万円以上 100 万円未満」の割合が 3.1 ポイント高くなっている。

表 13-9 年収一性・年齢階級別、収入のある仕事の有無別、全数、
12 年調査、7 年調査との比較

			総 数	5 0 万 円 未 満	1 5 0 0 0 万 円 以 上 未 満	1 1 5 0 0 0 万 円 未 以 上	2 1 0 5 0 0 万 円 未 以 上	2 2 5 0 0 0 万 円 未 以 上	3 2 0 5 0 0 万 円 未 以 上	5 3 0 0 0 0 万 円 未 以 上	5 0 0 万 円 以 上	無 回 答
総数			100.0 (1,451)	10.1	<u>20.1</u>	9.4	7.2	9.4	11.0	<u>16.3</u>	<u>11.2</u>	5.4
						16.6		20.4				
性・ 年 齢 階 級 別	男		100.0 (771)	2.1	4.0	5.2	8.8	13.2	16.3	<u>25.9</u>	24.4	5.8
		65～69歳	100.0 (135)	2.2	3.0	5.2	17.8	13.3	9.6	25.9	23.0	7.4
		70～74歳	100.0 (250)	2.0	5.2	6.4	6.4	14.8	17.2	23.6	24.4	4.4
		75～79歳	100.0 (216)	1.4	2.3	5.1	7.4	11.1	18.1	27.3	27.3	7.4
		80～84歳	100.0 (115)	2.6	5.2	4.3	7.0	12.2	18.3	27.0	23.5	3.5
		85歳以上	100.0 (55)	3.6	5.5	1.8	7.3	16.4	18.2	29.1	18.2	7.3
	女		100.0 (680)	19.1	<u>38.4</u>	14.1	5.3	5.0	5.0	5.3	7.8	4.9
		65～69歳	100.0 (189)	12.2	37.0	12.2	9.0	6.9	6.3	7.4	9.0	5.3
		70～74歳	100.0 (264)	15.5	40.9	17.4	4.9	3.8	4.2	6.1	7.2	4.2
		75～79歳	100.0 (147)	21.8	44.2	11.6	2.7	4.8	4.8	2.0	8.2	6.1
		80～84歳	100.0 (62)	38.7	24.2	12.9	－	6.5	4.8	4.8	8.1	4.8
		85歳以上	100.0 (18)	55.6	16.7	11.1	11.1	－	5.6	－	－	－
無 別	事業収入のある人	仕事をしている	100.0 (399)	1.8	8.5	7.0	7.5	11.0	9.8	17.8	29.8	6.8
	有職者	仕事をしていない	100.0 (1,050)	13.1	24.6	10.3	7.0	8.8	11.5	15.7	4.3	4.8
全数			100.0 (4,583)	9.0	<u>17.0</u>	12.8	10.1	10.8	10.8	14.1	10.2	5.1
						22.9		21.6				
12年調査			100.0 (1,514)	11.5	16.4	16.1		17.3		19.9	16.7	2.2
7年調査			100.0 (2,132)	18.4	14.6	14.7		17.8		17.3	13.1	4.2

7 社会参加と意識

(1) 外出の頻度

高齢者夫婦のみ世帯では「ほぼ毎日」外出する割合が、前回調査（12年）よりも増加し、6割弱。

外出の頻度は「ほぼ毎日」の割合が58.3%と最も多く、次いで「週2～3回」が17.3%となっている。『12年調査』と比較すると「ほぼ毎日」の割合は5ポイント増加し、「ほとんど外出しない」の割合は1.4ポイント減少した。（表13-10）

年齢階級別でみると65～69歳における「ほぼ毎日」の割合が65.1%と最も高い。

近所づきあい程度別では、つきあいがないにおける「ほぼ毎日」の割合は3割（33.3%）にとどまり、一方で「ほとんど外出しない」の割合が2割（21.3%）を超えている。

表 13-10 外出の頻度一性、年齢別階級、近所づきあいの程度別、全数、12年調査との比較

		総 数	ほ ぼ 毎 日	週 4 回 以 上	週 2 ～ 3 回 程	週 1 回 程 度	し ほ な と い ん ど 外 出	無 回 答
総数		100.0 (1,451)	58.3	15.7	17.3	4.1	4.5	0.1
性 別	男	100.0 (771)	59.5	15.2	15.6	4.8	4.8	0.1
	女	100.0 (680)	56.9	16.3	19.3	3.2	4.3	-
年 齢 階 級 別	65～69歳	100.0 (324)	65.1	16.4	14.5	2.2	1.9	-
	70～74歳	100.0 (514)	61.3	16.9	13.6	4.9	3.3	-
	75～79歳	100.0 (363)	53.2	18.2	20.9	3.3	4.1	0.3
	80～84歳	100.0 (177)	50.3	6.8	27.7	5.6	9.6	-
	85歳以上	100.0 (73)	52.1	13.7	12.3	6.8	15.1	-
近 所 づ き あ い の 程 度 別	お互いに訪問し合 う人がある	100.0 (370)	65.1	11.4	15.4	3.5	4.3	0.3
	立ち話をする程度 の人がある	100.0 (584)	58.6	17.6	18.8	3.1	1.9	-
	あいさつをする程 度の人がある	100.0 (421)	56.5	17.3	15.7	5.0	5.5	-
	つきあいがない	100.0 (76)	33.3	13.3	22.7	9.3	21.3	-
全数		100.0 (4,583)	57.6	14.5	16.0	5.5	6.3	0.2
12年調査		100.0 (1,514)	53.3	16.8	17.6	6.1	5.9	0.2

(2) 1年間に行った活動

1年間に行った活動は高齢者全体と比較すると、全ての活動について高齢者夫婦のみ世帯の割合が高い。

1年間に行った活動は、「趣味のサークル」が30.0%で最も多く、次いで「スポーツ（体操、ウォーキング、水泳など）」が25.7%と続いている。『全数』と比較すると全ての活動について「高齢者夫婦のみ世帯」が高い割合となっており、社会的で活発であることがうかがえる。（図13-12）

性・年齢階級別でみると「趣味のサークル活動」は、女性の前期高齢者が39.1%と高くなっている。（表13-11）

図13-12 1年間に行った活動（複数回答）－全数との比較

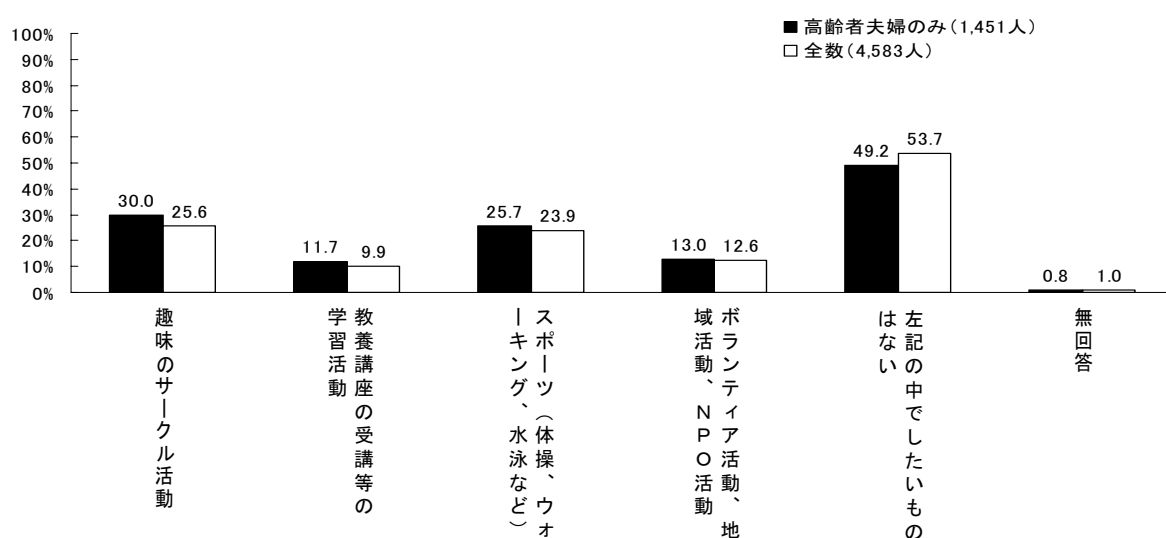


表13-11 1年間に行った活動（複数回答）－性・年齢階級別

		総数	趣味のサークル活動	活動教養講座の受講等の学習	スポーツ	活動ボランティア活動、NPO活動、地域	左記の中ではないもの	無回答
総数		100.0 (1,451)	30.0	11.7	25.7	13.0	49.2	0.8
性・年齢階級別	男	100.0 (771)	25.2	10.4	25.6	13.7	51.5	1.0
	65～74歳	100.0 (385)	25.7	10.6	30.9	15.3	47.5	1.6
	75歳以上	100.0 (386)	24.6	10.1	20.7	12.7	53.9	0.5
	女	100.0 (680)	35.4	13.2	25.9	12.1	46.6	0.6
	65～74歳	100.0 (453)	39.1	15.0	31.3	13.0	40.0	0.4
	75歳以上	100.0 (227)	28.2	9.7	15.0	10.1	59.9	0.8

(3) 心配ごとや悩みごとの内容

高齢者夫婦のみ世帯における心配ごとや悩みごとの内容は、「自分の健康・病気」や「配偶者や家族の健康・病気」「配偶者に先立たれた後の生活のこと」の割合が高い。

心配ごとや悩みごとは最も多いのが「自分の健康・病気」で46.3%、次いで「配偶者や家族の健康・病気」43.0%、「配偶者に先立たれた後の生活のこと」15.9%と続いている。

(表 13-12)

性・年齢階級別でみると「自分の健康・病気」「配偶者や家族の健康・病気」は男性よりも女性の割合が高く、特に後期高齢者の割合が高い。

また、「家計が苦しい」は、女性よりも男性の割合が高く、前期高齢者の割合が高い。

表 13-12 心配ごとや悩みごと（複数回答）－性・年齢階級別、全数との比較

		総数	自分の健康・病気	配偶者や家族の健康・病気	家族や親族との人間関係	世話をしてくれる人がいない	頼れる人がいなくて、一人きりである	地域の人たちとの関係	家計が苦しい	社会保障給付の水準	住宅に関すること	仕事に関すること	財産管理や相続のこと	犯罪に巻き込まれること	地震等の災害にあうこと	配偶者に先立たれた後の生活のこと	自分の死後の配偶者や子どもの将来	その他	心配ごとや悩みことはない	無回答	
総数		100.0 (1,451)	<u>46.3</u>	<u>43.0</u>	4.5	1.7	0.3	1.2	5.0	13.2	4.2	2.3	2.5	7.0	19.2	<u>15.9</u>	11.2	1.0	31.6	1.2	
性・年齢階級別	男		100.0 (771)	<u>44.6</u>	<u>39.6</u>	5.1	1.4	0.4	1.3	<u>5.8</u>	14.5	4.5	3.2	2.5	6.5	18.4	17.5	12.6	0.9	32.9	1.6
		65～74歳	100.0 (385)	42.6	35.1	4.2	1.6	—	1.0	<u>8.3</u>	19.7	4.4	6.0	2.1	6.0	19.7	18.4	11.9	—	34.8	1.0
		75歳以上	100.0 (386)	46.6	36.0	6.0	1.3	0.5	1.6	3.4	9.3	4.7	0.5	2.8	7.0	17.1	16.3	13.2	1.0	31.1	2.1
	女		100.0 (680)	<u>48.2</u>	<u>46.9</u>	3.8	2.1	0.1	1.0	<u>4.1</u>	11.6	3.8	1.3	2.6	7.5	20.0	14.1	9.7	1.2	30.1	0.9
		65～74歳	100.0 (453)	46.6	44.6	4.2	2.4	0.2	1.1	5.3	12.6	4.0	1.8	2.6	7.5	20.3	15.2	9.1	1.1	31.8	0.4
		75歳以上	100.0 (227)	<u>51.5</u>	<u>51.5</u>	3.1	1.3	—	0.9	1.8	9.7	3.5	0.4	2.6	7.5	19.4	11.9	11.0	1.3	26.9	1.8
全数		100.0 (4,583)	46.6	30.9	4.9	2.9	1.8	1.3	5.7	12.8	5.4	2.8	2.6	6.3	17.7	9.3	10.2	1.2	31.9	1.5	

(4) 相談相手

高齢者夫婦のみ世帯の心配ごとや悩みごとの相談相手は「世帯員」（配偶者）が7割強で最も多い。

心配ごとや悩みごとの相談相手は「世帯員（配偶者）」が72.6%と最も多く、次いで「世帯員以外の親族」が44.3%と続いている。『全数』の割合と比較すると「世帯員」が13.4ポイント、「世帯員以外の親族」は5.1ポイントそれぞれ高くなっている。（図13-13）

性・年齢階級別でみると、「世帯員（配偶者）」は前期高齢者の男性の割合が8割弱（77.4%）と高く、「世帯員以外の親族」は後期高齢者の女性の割合が高く52.9%、「友人、知人」は前期高齢者の割合が高く24.3%となっている。

また、「行政機関の相談窓口」は前期高齢者の割合が8.8%と高い。（表13-13）

図13-13 心配ごとや悩みごとの相談相手（複数回答）－全数との比較

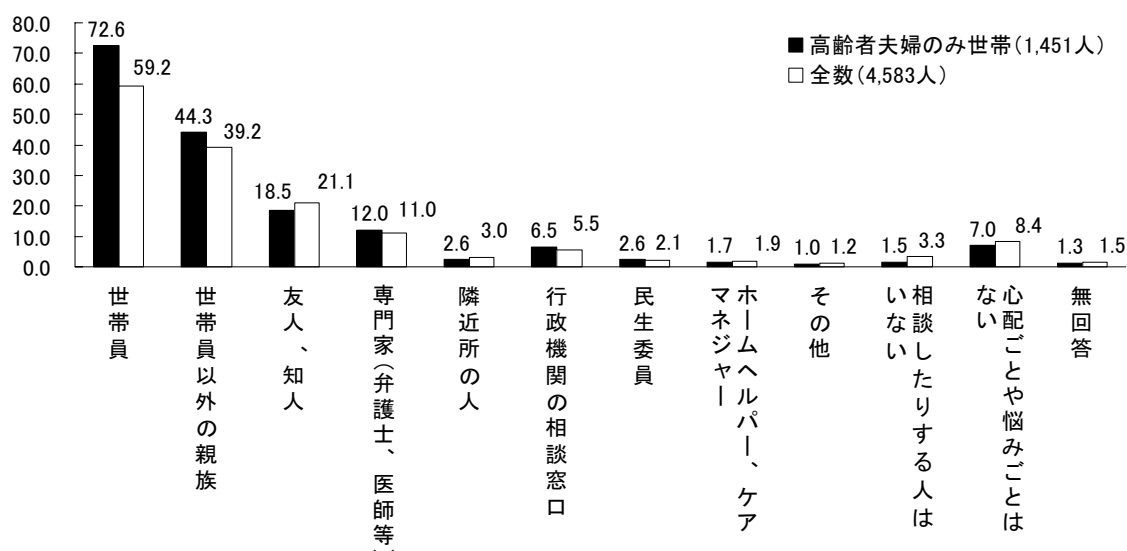


表13-13 心配ごとや悩みごとの相談相手（複数回答）－性・年齢階級別

		総数	世帯員	世帯員以外の親族	友人、知人	専門家（弁護士、医師等）	行政機関の相談窓口	隣近所の人	民生委員	マネジャーヘルパー、ケア	その他	相談したりする人はいない	心配ごとや悩みごとは無回答
総数		100.0 (1,451)	72.6	44.3	18.5	12.0	6.5	2.6	2.6	1.7	1.0	1.5	7.0
性・年齢階級別	男		74.4 (771)	38.8	15.8	13.7	8.2	2.7	3.2	1.9	1.4	1.7	7.5
		65～74歳	100.0 (385)	77.4	35.6	20.0	14.8	8.8	2.6	2.6	0.8	1.6	7.8
		75歳以上	100.0 (386)	71.5	42.0	11.7	12.7	7.5	2.8	3.9	3.1	1.3	7.3
	女		70.6 (680)	50.6	21.6	10.0	4.6	2.5	1.9	1.3	0.6	1.3	6.5
		65～74歳	100.0 (453)	72.8	49.4	24.3	9.5	4.9	3.3	1.8	1.1	0.7	5.7
		75歳以上	100.0 (227)	66.1	52.9	16.3	11.0	4.0	0.9	2.2	1.8	0.4	7.9

8 高齢者に対する必要な施策や支援

「高齢者夫婦のみ世帯」での高齢者に対する施策や支援は、訪問介護や訪問看護などの「在宅サービスの充実」をあげる人が多く、6割強。

大切だと思う施策や支援については「介護者が自宅を訪問する形態サービスの充実」が62.0%で最も多く、次いで「年金や医療等、国の社会保障制度の充実」54.7%、「ショートステイの充実」が49.8%と続いており、在宅サービスの充実をあげる人が多い結果となっている。

『全数』と比較すると、「高齢者向け住宅の充実」を除く全ての施策や支援について割合が高くなっている。(図 13-14)

図 13-14 高齢者に対する必要な施策や支援（複数回答）－全数との比較

